

8月1日（火）～9月24日（日）の会期で開催中の企画展「大久保智睦一鏡映空間」。その関連イベントとして、大久保智睦先生ご本人をお迎えしてギャラリートークを開催しました。

つきいちアート8月
「大久保智睦先生による
ギャラリートーク」
レポート
2017.8.26



たくさんの方に来場いただきました。



会場の方からのご質問にもお答えいただきました。



絵を描くとき、心は常に「静謐」であると語られました。

すが、様々な作風を持つ作品の由来が明かされました。

大久保先生は、精力的に制作活動を行っており、2019年には百貨店での展覧会の予定があるそうで、今後のご活躍にも目が離せません。

諏訪市美術館の企画展「大久保一鏡映空間」は9月24日（日）までです。ぜひご覧ください。

トーク当日は、およそ50名のお客様にご来場いただき盛況でした。今回のギャラリートークは、進行役の学芸員が大久保先生に質問を投げかけるかたちでおこないました。質問の内容は、美術を志すきっかけとなったこと、こだわりの額装について、今後描きたいモチーフなどなど、多岐にわたり、なかでも日本画の魅力について多く語っていただきました。

大久保先生は、お祖父様もお父様も制作活動をされており、小さいころから美術館や博物館によく連れて行ってもらったそうです。そうした環境で育ったこと、また、自身も図工や美術の時間が好きだったことから、自然と美術の道に進むことを考えていたそうです。

その中で見た展覧会で日本画に出会います。こんな絵画があるのだとショックを受けると同時に岩絵の具の美しさに魅了され、日本画を描くことを決めたと語られました。

今でも画材屋に岩絵の具を見に行くと、その美しさについてたくさん買ってしまうそうです。

日本画の描き方や、道具についても詳しくお話されました。今回の展示は、大久保先生ご自身が使用している岩絵の具や筆などの道具も展示しています。

また、師から、常に新しいことに挑戦しなさい、という言葉を受け、一枚一枚描き方やモチーフを変え描いているとのこと。そうすることで苦しい思いをすることもあるということ